社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック
代表取締役社長　稲垣良次

2021. 3
No.331

イナテックグループの目指す姿

イナテックは今年で創立70周年を迎えます。この70年の歴史の中で、皆さんによって確立された〝加工点技術〟を活かした事業領域の拡大と持続的成長が今後のテーマです。

現在のA／T依存で売上重視の経営から、10年後の2031年、イナテック80周年では、売上重視から、〝営業利益率〟重視の経営に変革させます。

その(2031年80周年)目標を実現する為の売上比率は、A／T関連30％、EV・FCV・HV30％、医食住・環境を40％にすることです。

A／T部品事業は現有の設備をしっかりメンテナンスし、しっかりムダを排除する。注意しなくてはいけないことは、現行のラインには新規投資せずに効率を上げ、売上総利益率を向上させることです(既存事業の深化)。

EV・FCV・HV事業については、歯車の小ロット生産ラインを準備しております。又そのEV事業の中でも、冬季北京オリンピック選手送迎用のFCV(燃料電池自動車)バスのローターシャフトの受注生産も開始しており、EV・FCV時代に向けてイナテックも受注活動を本格的に進めております。

A／T以外(医食住・環境)については、新規お客様として、人間との協働ロボットのアームをフアナック様から受注し納品させていただき、追加注文も続いております。

プロ用電動工具向けにマグネシウムのカバーをマキタ様から受注し、大変難しい製品ですが和泉工場・西尾東工場の連携プレーでマキタ様には喜んで頂いております。

又ツガミ様(工作機械生産台数では世界1位)からは、イナテック平湖の御縁で急遽、歯車製作のお仕事を頂き、韓国向け工作機械に貢献できそうです。

他にも島津製作所様・三菱電機様等々、このコロナ禍の中でも高利益を上げてみえる日本を代表される一流企業様からのお取引が増えてきました。

これらは、今までの種まきと現在のイナテック試作開発の方々とイナテック営業の方々の素晴らしい対応のお陰と感謝申し上げます。

このように既存事業(A／T)の深化と新規事業の探索の「両利きの経営」に変革することで、今からの時期を乗り切ってまいりますので、イナテックマン皆様の御協力をお願いいたします。

カーボンゼロ

『フジサンケイビジネスアイ』大宅映子氏インタビューより

カーボンゼロ
CO_2ゼロ
カーボンニュートラル
ほぼ同意語として使用されています

昨年12月に日本国政府は「2050年カーボンニュートラルに伴う、グリーン成長戦略」を発表されました。

つまり2050年にCO_2ゼロの世界を実現すると宣言したということです。石炭や石油を燃焼させてCO_2を排出するエネルギーは、使用してはいけないということです。

ですから日本国民も、石炭火力や石油火力発電は使えない、使ってはいけない世の中になるということです。

当然、ガソリンエンジン・軽油ディーゼルエンジンも使えなくなるということです。

日本はどのように〝カーボンゼロ〟を達成しようとしているのか、日本国グリーン成長戦略から説明します。

日本は

再生エネルギー(自然を利用)　50～60％

原子力　30～40％

水素・アンモニア　10％

計100％の試算です。

やはり風力や太陽光や、地熱発電、波力発電、水力発電etcの色々な再生エネルギーを使っても最大60％ぐらいしか賄えないと試算しています。

次は原子力発電30％です。

原子力発電については、日本人は〝原爆〟のイメージが強く危険と感じている人が多いので、原子力発電について詳しく調べてみました。

「そもそも世の中には100％安全というエネルギーはないということです。日本社会では『100％安全を保証しろ』という議論になってしまいがちですが小さくてもリスクはあります。『そのリスクに対応するためには、こうした手段を講じなければなりません』ということが言えない空気が存在しています。

遅ればせながら脱炭素に舵を切る日本は、化石燃料の消費を抑えつつ再生エネルギーをできるだけ増やしながら、一方でCO2を出さない原子力を使う必要があるということです。(日本政府も同じ考えです)

世界中『アンチ原発』と思っている日本人が多いようですが、フランスは70％、米国・スウェーデンは40％の電気を原子力で賄っています。中国・インド・ロシアなどの途上国は、これから豊かになるためにエネルギーを必要としており原発を積極的に推進する計画です。日本がいくらやめても近隣諸国で原発は増えていきます。

日本の高度な原子力技術に磨きをかけ、これから途上国の原発計画に貢献していくことが義務と責任であり、世界もそれを期待しているのです。

豊かさや便利さは今まで通りで、でも原発は嫌だという選択肢はあり得ない」ということです。

カーボンゼロを2050年に達成するために原子力発電に正しい理解を示し、達成しなければならないことを肝に銘じる時です。

九三

平民肯種徳施恵、便是無位的公相。士夫徒貪權市寵、竟成有爵的乞人。

無位無官の人でも、自からすすんで世に徳を植え人に恵みを施すなら、それはもう無冠の宰相である。(これに反して)、高位高官の人でも、ただ権勢をむさぼり求め人に恩を売るだけでは、それはもう衣冠をつけた乞食も同然である。